

ドイツ発：自分らしい作品づくりができるから ミュンヘン在住・鎌田治朗がハナウで個展

本誌連載“私は生まれた”でも登場した、ドイツ在住のジュエリー作家、鎌田治朗氏の個展が、ハナウの貴金属工芸館で4月3日まで開催中です。

1978年生まれ、今年ちょうど30歳の同氏は、山梨県立宝石美術専門学校を経て、ドイツのフォルツハイム造形大学ジュエリー科へ。その後、2006年には、ミュンヘン造形美術大学で、現代ジュエリーのパイオニアの一人、オットー・クンツリ教授に師事し、首席で卒業したそうです。

現在も、ミュンヘンにアトリエを構え、国内外の公募展や展覧会に出展し、数かずの受賞経験も。

実家は、青森の弘前。時計職人の祖父、宝石店を営む父とは、同じジュエリーでも、違う方向へ、一人歩き始めて10年になるといいます。宝石や貴金属にこだわらない環境でのモノ作りが、同氏には向いているのでしょうか。

今展では、カメラのレンズやサングラスを使った作品(写真)などを見せています。

ドイツ発：チママンの 海賊とダイヤ

ドイツのジュエリーアーティストで、本誌でもおなじみの、エリック・チママン：Erich Zimmermannが、国際的トレードフェア“インホルゲンタ：inhorgenta”（2月15日～18日：ミュンヘン国際見本市会場）に出展。例年通り、新作を発表しました（写真右ページ）。インホルゲンタは、読者周知の通り、トレードフェアでありながら、比較的、デザイン性やアーティスト的な商品づくりを手がける作家たちが多く参加することで、通常の宝飾品のフェアとはテイストの違ったジュエリーに出会えます。同氏もその一人で、一点一点、手づくりが中心。キャリアも長く、ビジネスとしての展開も行なっていますが、普及品とは違って、どれも人間性や感性が表現されています。

写真右ページ

上：K18グレーゴールドの海賊型のリング。頭上には財宝のダイヤモンドを。世界的に人気のあるスカル風のモチーフは、男女問わず着けられる。

同下：K18YGのハートシェイプのロケット。中には、チママンそっくりの2世と、パートナー似の愛娘の写真を。ロケットも着けたいようなジュエリーに。カボションカットのルビーが、心臓っぽい。



当社では、顕微ラマン分光分析装置などの最新鋭機器を導入し、熟練グレーダーの目とこれら最新の分析機器による検査を通過したダイヤモンドにのみグレーディング・レポート(鑑定書)を発行しています。その技術レベルの高さが世界で認められている中央宝石研究所の『ダイヤモンド・グレーディングレポート』または『宝石鑑別書』をご用命下さい。



本社 〒110-0005
東京都台東区上野5-15-14
ミヤギビル
☎ 03(3836)1627 (代)
FAX 03(3832)6861
<http://www.cgl.co.jp/>

中央宝石研究所

CENTRAL GEM LABORATORY

東京支店・名古屋支店・大阪支店・博多支店・甲府事務所・教育部・器材部

